

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第6区分
【発行日】平成29年1月12日(2017.1.12)

【公開番号】特開2014-141303(P2014-141303A)
【公開日】平成26年8月7日(2014.8.7)
【年通号数】公開・登録公報2014-042
【出願番号】特願2013-271515(P2013-271515)
【国際特許分類】

B 6 5 D 35/02 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 35/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年11月25日(2016.11.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

一端部に注出口部が設けられ、内容物が充填された後に他端部がエンドシール部として閉塞された合成樹脂製の筒状のチューブ本体と、該チューブ本体の筒状の胴部の外周面を覆って貼着された合成樹脂製の貼着ラベルとを含むラベル付きチューブ容器であって、
前記貼着ラベルは、前記エンドシール部の範囲内に延設して前記胴部に貼着されており、

前記エンドシール部と前記胴部との境界線又は前記エンドシール部における境界線の近傍に第1押圧線状薄肉線が設けられており、該第1押圧線状薄肉線は、前記エンドシール部の他の領域よりも肉厚方向に深く形成されており、

前記エンドシール部の範囲内に延設した前記貼着ラベルの先端縁部分に沿って、前記エンドシール部の領域内に、第2押圧線状薄肉線が設けられており、該第2押圧線状薄肉線は、前記エンドシール部の他の領域よりも肉厚方向に深く形成されているラベル付きチューブ容器。

【請求項2】

前記第1押圧線状薄肉線は、前記エンドシール部の他の領域よりも、0.05～1.0mm肉厚方向に深く形成されている請求項1記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項3】

前記第1押圧線状薄肉線は、前記エンドシール部の他の領域よりも、0.1～0.8mm肉厚方向に深く形成されている請求項2記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項4】

前記エンドシール部の範囲であって、前記エンドシール部と前記胴部との境界線から0～4mmの領域に、前記第1押圧線状薄肉線が設けられている請求項1～3の何れか1項記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項5】

前記チューブ本体と前記貼着ラベルとの間に接着剤層を有する請求項1～4の何れか1項記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項6】

前記チューブ本体は、アルミ層を備えておらず、且つカーボンブラック又は酸化チタンが配合されたポリオレフィン層及びその外側に設けられたバリア層を有しており、

前記貼着ラベルは、少なくとも一部が金属光沢を有している請求項1～5の何れか1項記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項7】

前記エンドシール部に貼着された前記貼着ラベルの先端縁部と、前記エンドシール部の先端縁部との間に、非ラベル部16が保持されている請求項1～6の何れか1項記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項8】

前記第1押圧線状薄肉線又は前記第2押圧線状薄肉線は、連続的な線、点線、又は鎖線となっている請求項1～7の何れか1項記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項9】

前記前記第1押圧線状薄肉線又は前記第2押圧線状薄肉線の幅は、0.3～2mmとなっている請求項1～8の何れか1項記載のラベル付きチューブ容器。

【請求項10】

カモミラ成分及び有機系紫外線吸収剤から選ばれる成分を含有する組成物が収容されている、請求項6～9の何れか1項記載のチューブ容器。

【請求項11】

一端部に注出口部が設けられ、内容物が充填された後に他端部がエンドシール部として閉塞された合成樹脂製の筒状のチューブ本体と、該チューブ本体の胴部の外周面を覆って貼着された合成樹脂製の貼着ラベルとを含むラベル付きチューブ容器の製造方法であって、

前記エンドシール部の範囲内に延設して前記胴部に貼着された前記貼着ラベルに、前記エンドシール部を設けた後、

前記エンドシール部と前記胴部との境界線又は前記エンドシール部における境界線の近傍に第1押圧線状薄肉線を形成し、

前記第1押圧線状薄肉線を押圧形成した後に、前記エンドシール部の範囲内に延設して前記胴部に貼着された前記貼着ラベルの先端縁部分に沿って、第2押圧線状薄肉線を形成するラベル付きチューブ容器の製造方法。